

ごはんで元気な。

荒川小 五年 芳村 もな

二年前の夏休みにお父さんが救急車で運ばれて入院しました。お父さんはいつも忙しくて、責任ある仕事が続いていました。そして、体がつかれて、胃の中が切れてしまいました。夫くさん出血してしまいました。病院ではすぐにごきずをふさぐ手術をしてもらいました。三日間点滴をきただけです。おなかのきずが治るまで、ごはんは食べられないと

おん護師さんに言われました。お父さんはつかれていて、病室のベッドの上で、点滴をきかされて、管や機械の線につながれて寝ていました。

わたしは、お母さんとお姉ちゃんといっしょに、毎日病院に通いました。少しでも、お父さんが楽しい気分になってほしいと思い、明るく話しました。

それから五日くらい経って、ドロドロのおかゆが食べられるようになってきました。もともと、お父さんはおかゆが苦手でした。お父さん

はって少しずつ食べました。

何回かおがゆを食べるようになった。だん元気が出てきた様子でした。そしてお父さんは、少しずつ歩く練習も始めるようになった。りました。最初は、車いすからおりて歩くですぐに、息切れをして、とてもつらそうでした。夫が、何日か練習するうちに、階段の上り下りも出来るようになった。そのあと、点てきを外せるようになったり、かん護師さんから

「退院しても一カ月間は安静にして、消化の

いいものを食べて下さい。お酒や辛いものはしばらくひかえて下さい。おがゆ、お粥が食べると言われました。お父さんは退院しました。家に帰ると、お母さんは、やわらかくて消化のよいごはんをたきました。お父さんはそれをおいしそうに食べていました。わたしもお母さんもおがゆやんも、おいしいねえと言いなから、みんな食べました。わたしは、やわらかいごはんの上にしらすや、のりのつくだにをのせて食べるのが特に好きになりました。

した。お母さんのやさしさかいっぱいっ
たやわらかごはんで、お父さんはどん
どん元気になっ
ていきました。

わたしは毎年、夏になると、お父さんか入
院していた時の事を思い出して、少し悲しく
なりますが、今ではお父さんもすっ
かり元気になっ
て家族みんな
で食べるご
はんか当
たり前のよ
うになっ
ています。みんな
で食べるご
はんは、やっぱり一番うれしいです。お父さんか
おありを
すると、わたしも負けずにお
かわりを
します。いつまでも、みんなでお
しくてうれ
しいごはん
を食べら
れたらいい
なと思います。
わたしは、ご
はんのおか
げでお父
さんが元
気になっ
たと思
いました。
ごはん
は、おい
しいだ
けじゃ
なく、病
気を治
す力か
あっ
て、と
てもす
ごいな
と思
いま
した。